

活動名		火おこし（マイギリ式）			
概要	○マイギリ式発火法により、グループ内で協力して火をおこす。				
ねらい	○グループで協力して作業を進めることにより、連帯感を深める。 ○古代人の生きる力にふれ、生きるための工夫に気づく。				
関連教科等	理科・社会・道徳・総合				
指導形態	「自主活動で実施」「職員は活動の説明のみ行う」「職員が指導を行う」				
時期	通年	時間帯	いつでも	対象	中学年～
場所	創作棟	人数	～180人 (3～8人/1グループ)	所要時間	1.5～2時間
準備物	施設で準備できるもの		団体・個人で準備するもの		
	火おこし道具一式（24班分） ランプ		なし		
進め方・展開例					
内容			留意点		
活動前	○事務室で打ち合わせを行う。 ・ねらいの確認 ・人数、班の数、活動の進め方				
活動の説明	○マイギリ式の発火法について説明をきく。 		○利用する道具と植物の紹介をする。 ・火きり板（檜） ・火きりぎね ・ガマの穂 ・松葉 ○けがややけどの注意を促す。		
展開	○グループごとに道具を準備する。 ・火おこし道具一式。 ○マイギリ式発火法で火種をつくる。 ・火きりぎねを火きり板の穴に合わせ、回転させておこる摩擦により火種をつくる。 ・ガマの穂を敷いた受け皿に、火種（黒い粉）をとる。 ○火種を炎にする。 ・溜まった火種から煙が見え出したら、松葉をかぶせ、火種に向かって真上から細く長く息を吹きかける。 ・炎がついたらロウソクに火をうつす。 ・皿の中の火種は、水の入ったバケツに入れる。 ○グループごとについたロウソクの火を一つにして、ランプに火をとる。 ○道具の片づけと清掃。 ・周辺に散らばったガマの穂や松葉を掃除する。		○補助者は火きり台の上に手を置かないよう気をつけさせる。 ○発火した炎で、前髪やまつげを焦がさないよう注意を促す。 ○受け皿の消火を確認する。		
まとめ	○火おこし体験の感想を発表し合う。 ○ランプは友情の火として退所まで灯し続けることを告げる。（保管は、玄関入り口）				
評価	○グループで協力して活動ができたか。 ○古代人の苦労や生きるための知恵のすばらしさを感じることができたか。				
発展	○火おこしの火を炊飯活動やキャンプファイヤーなどの活動に連動させるとプログラム化につながる。 ○他の発火法を体験してもよい。（ヒモぎり式、きりもみ式など）				